

いごいのみぎわ

天路歷程 ジョン・バニヤン

第13話

2022年2月13日～2月19日 各家庭でのディボーション用テキスト

基督者 ですが、あなた方の習わしは律法で審問されても大丈夫ですか。

虚礼者と偽善者 その慣習はもう千年以上も続いているので、今では公平な裁判官ならだれでもきっとそれを正当と認めるでしょう。その上、この道に入りさえすれば、どの道から入ろうと構わないではありませんか。入ったものは入ったものです。お見うけしたところ、君は門から入って来てこの道にいるに過ぎないが、私たちだって垣越しに転げ込んでこの道にいるのです。ところで、君の身上はどの点で私たちのより優っているのですか。

基督者 私は主の規則によって歩くのですが、君たちは気まぐれの不作法な働きによって歩くのです。もうすでにこの道の主から盗人と考えられています。だからこの道の終りについたとき真人間とは見られないでしょう。君たちは彼の指図をまたず、勝手に入って来たのだから、彼の恵みなしで勝手に出てゆくことになりましょう。

二人はこれにはろくに返事もしないで、ただよけいなお世話だと言った。それから見ていると、彼らはお互いに余り話もせず、思い思いに道を進んで行った。ただこの二人は基督者に言った、律法と儀式とについては、私たちは君に劣らず良心的にこれを行なうことを疑っていません。だから、君が着ている上衣以外には、どの点で君が私たちと異なるのか分からないのです。その上衣というのは、確かにだれか近所の人が君の裸の恥を隠すためにくれたものでしょう。

基督者 律法と儀式とによつては救われませんが、【ガラ2:16】戸口から入って来なかったのだから。私か着ているこの上衣はと言うと、それは私か目指す所の王が下さったもので、君たちの言われるとおり、私の裸を隠すためのものです。そして私はそれを彼の親切の印としてうけています。以前はぼろ着物だけしかなかったからです。その上私は歩きながらこう考えて自分を慰めています、都の門に着いたら、きっと主は私を善しと認めて下さるであろうと。私は彼の上衣—私のぼろをはぎ取って下さったその日に、惜しげもなく私に賜わった上衣—を着ているのですからね。それに私は額に印を一つ持っています。恐らく君たちはそれに少しも気づかれなかったでしょうが、それは主の最も親しい方々の一人が、私の重荷が肩から落ちたその日に額につけてくれたものです。その上君たちに申したいことは、私が道中歩きながら読んで自分を慰めるために、封印をした一つの巻物をそのとき与えられたことです。またそれに従って確かに入って来た印として天国の門でそれを差し出すよう命ぜられました。恐らくこういった物はどれも君たちは持つておられないでしょう。門から入って来なかったのですからね。

これらのことに対して彼らは少しも答えず、ただ互いに顔を見合わせて笑っただけであった。それから、見ていると、一同は進んで行ったが、ただ基督者だけは—

足先へ進んで、時としてはため息をついたり、時としては愉快げに独り言を言うほかはだれとも口をきかなかった。またしばしば巻物を読んだ。それは輝ける者の一人が与えたもので、それによって彼は元気を回復した。

その時私が見ていると、彼らは皆進んで行って、ついに丘のふもとにやって来た。そのくぼ地には一つの泉があった。またそこには門から真直ぐに来ている道のほかに二つの道があって、丘のふもとで一つは左手に向かい、他の一つは右手に向かっていた。しかし狭い道は丘の真上を通過して（山腹を登ってゆく道は難儀という名で呼ばれている）、基督者は今やその泉に行き、【イザ 49:10】元気回復のためにそれから飲んで、次のように言いながら、丘を登り始めた。

この丘は高いが、ぜひとも登りたい。
困難のためつまづくことはない。
私は知る、命の道はここにある。
いざ心よ、奮い立て、挫けず、恐れず。
難くとも正しき道を行くは、
易くともよこしまの道を行くに優る。
その終りは禍だからだ。

ほかの二人も丘のふもとにやって来た。ところが丘がけわしくて高く、行くべき道が二つあるのを見たとき、それが基督者の登って行った道と再び丘の向こう側で会うかもしれないと考えたので、その道に入って行こうと決心した。（さて、その道の一つの名は危険と言ひ、今一つは名を滅亡と言った。）そこで一人は危険と呼ばれる道をとって行くと大きな森に入った。他は滅亡の道へ真直ぐに進んで行くと広い野原に出たが、そこには暗い山々が重なり合っていたので、彼はつまずき倒れて、【エレ 13:16】それきり起き上がらなかった。

それから私は基督者を後から見ていると、丘を登ってゆくのが見えた。そこがけわしいために、駆けていたのが歩くようになり、歩いていたのが手と膝とてよじ登って行くようになるのを認めた。さて、丘の絶頂へ行く中程に気持のよいあずまやがあった。それは疲れた旅人たちの元気を回復するために丘の王が造られたものである。基督者がそこに着くと、彼もまた腰をおろして休んだ。そこから巻物を懐から取り出し、それを読んで慰められた。彼はまた上衣、すなわち、十字架の側に立ったときもらった衣服を今さらのようにしげしげと眺めた。こうして暫く楽しんでいるうちに、ついにうとうととまどろみ始め、やがてぐっすり眠ってしまったので、ほとんど夜になるまでそこにとどまった。そうして眠っている間に彼の巻物は手から落ちた。さて彼が眠っているときに、一人の人、がやって来て彼を呼び起こして言った。

「なまけ者よ、ありのところへ行き、
そのすることを見て、知恵を得よ」。【箴 6:6】

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】